

AI時代への一手：ディズニーとOpenAI、提携の狙いとは？

「訴訟から共存へ」戦略転換



公式ライセンスでブランドを保護し、
無断でIPを利用するAIを牽制する。

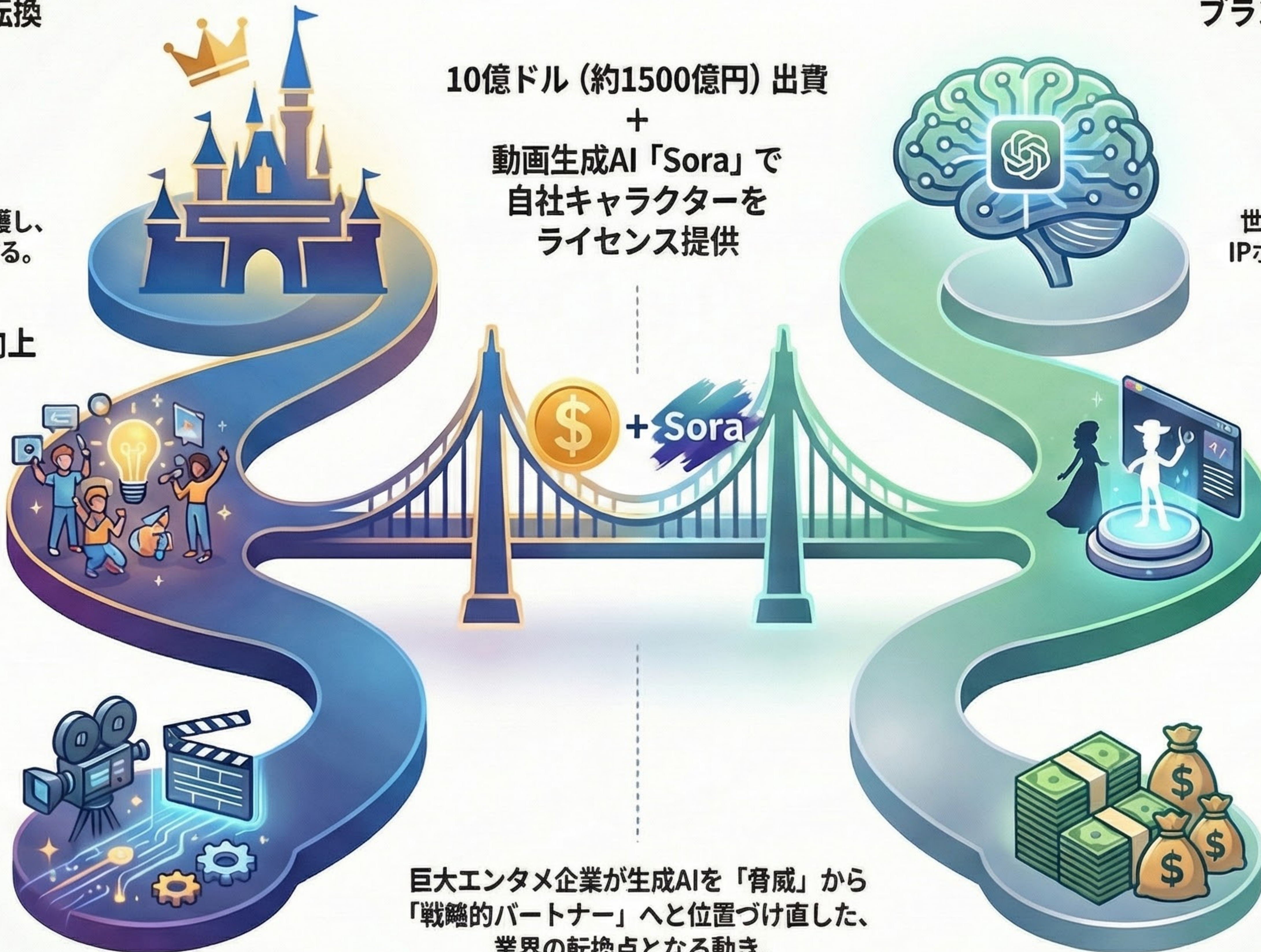
若年層のエンゲージメント向上



ファン参加型のUGC（ユーザー生成コンテンツ）で新たな体験を提供し、若者の支持を機得。

本業強化とコスト削減

生成AIを映画制作に導入し、
ワークフローの効率化と
コスト削減を図る。



10億ドル（約1500億円）出資

＋
動画生成AI「Sora」で
自社キャラクターを
ライセンス提供

ブランド力と社会的信頼性の向上

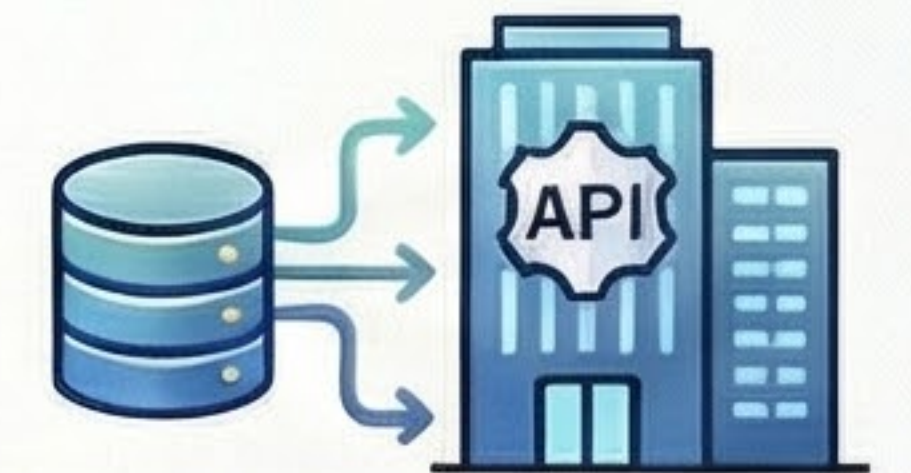


世界的企業ディズニーとの授権で、
IPホルダーとの共存路線をアピール。



競合にはない
「独自資産」の獲得

Soraでディズニー公式キャラクターを独占的に扱い、サービスを大幅に強化する。



安定した収益源の確保

1500億円の出資に加え、ディズニーを大口顧客としてAPI利用などを促進する。

巨大エンタメ企業が生成AIを「脅威」から
「戦略的パートナー」へと位置づけ直した、
業界の転換点となる動き。